



2026. 4 No. 121



- ・北海道森林管理局長 着任あいさつ 宇野 聡夫
- ・造林・保育作業の軽労・省力化と「多様な森林づくり」に向けて（上川中部森林管理署）
- ・帯広市立大空学園義務教育学校で出張授業を実施（北海道森林管理局 広報ワーキングチーム）
- ・こんにちはは森林官です！（紋別森林事務所）
- ・若手職員のコーナー（留萌南部森林管理署）

林野庁



北海道森林管理局

北海道森林管理局長 着任あいさつ 宇野 聡夫



4月1日付で北海道森林管理局長に就任した宇野です。よろしくお願ひ申し上げます。

『北の森林 国有林』を読んでいただいている方は森林や国有林に何らかの係わりや関心のある方も多

かと思いますが、そうでない方も含めて皆さんは北海道の森林にはどのようなイメージをお持ちでしょうか。北海道の土地面積に占める森林は約7割で、我が国全体の森林率とほぼ同じ割合ですが、北海道ではまとまりをもった森林が広がっていることや、比較的なだらかな地形の所にもあることが特徴として挙げられるのではないかと思います。

普段の日常生活ではあまり森林を意識することも多くないかもしれませんが、北海道内を移動する際に利用する鉄道や道路は森林に囲まれたところも多く、本州からの玄関口となる函館から鉄道で北に向かうとすぐに大沼周辺の森林が車窓に広がりますし、新千歳空港から札幌に向かう高速道路もなだらかな森林が広がっているところを通ります。道外から訪れた人たちにとっては、こうした風景に北海道らしさを感じるでしょうし、峠から見渡せる広大な森林を目にして北海道の雄大さを感じることも多いのではないのでしょうか。

こうした北海道の森林のうち森林管理局が管理する国有林は約55%を占め、その多くは奥地脊梁山地や水源地域の山々にある天然林です。一方、約2割を占める人工林は昭和30年代に造成されたものが多く、成長したトドマツやカラマツといった針葉樹は循環して利用できる持続可能な資源として活用していく時期を迎えています。植栽した針葉樹の森林に自然に生えてきた広葉樹が入り混じっている森林もあり、北海道ならではの景観を作りだしています。

北海道の森林の植生は亜寒帯性の常緑針葉樹と冷温帯性の落葉広葉樹が混在しており、植物学者の舘脇さんは汎針広混交林地帯と名付けました。亜寒帯に本拠を持つ針葉樹と温帯から北上してきた広葉樹の勢力がせめぎ合っている地域ともいえるようです。

近年、生物多様性などの観点から針葉樹の人工林を広葉樹の入り混じった森林に移行していく取組も行われており、自然の力を活用してどのように将来の森林づくりをしていくかという壮大な取組であると思います。森林に求められる役割が多様になっている中、資源として活用していくことも含めて、地域に貢献できるよう北海道の国有林の管理経営に取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様からのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

● 略 歴 ●

平成 2年 3月	北海道大学農学部林学科卒
平成 3年 4月	農林水産省入省（I種・林学）
平成 27年 4月	林野庁森林整備部計画課首席森林計画官
平成 29年 7月	林野庁国有林野部業務課技術開発調査官兼 林野庁国有林野部経営企画課付
令和 元年 10月	林野庁国有林野部業務課長
令和 3年 7月	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備 センター審議役
令和 5年 7月	森林技術総合研修所長
令和 6年 4月	国立研究開発法人森林研究・整備機構理事
令和 8年 4月	北海道森林管理局長



国民の森林・国有林

地域課題の解決に向けた取組

造林・保育作業の軽労・省力化と 「多様な森林づくり」に向けて

上川中部森林管理署

写真：6月の黒岳山頂

【はじめに】

上川中部森林管理署は、北海道のほぼ中央部に位置し、石狩川の源流から中流域に広がる上川地域において、旭川市をはじめとする1市6町の国有林を管理しています。

管内は山岳地を主体とし、国内有数の天然林地帯を有しており、その多くが大雪山国立公園などの公園地域に指定されています。湿地や高山帯といった特殊な環境条件のもとで成立した多様な植物群落が分布していることから、「森林生態系保護地域」等に設定し、貴重な自然環境の保全に取り組んできました。

また、大雪山系は十勝岳をはじめとする道内有数の火山地帯でもあり、山地災害の防止機能を十分に発揮させる森林整備が強く求められている地域です。

【地域の現状と課題】

全国的人工林は本格的な利用期を迎えており、令和7年度の木材自給率は42.5%と、20年前の約2倍まで上昇しました。これは「伐って、使って、植えて、育てる」という森林資源の循環利用を加速させる好機である一方、林業の現場では自然条件の厳しさなどから、新規就労者の確保や担い手不足といった課題が深刻化しています。この状況は上川地域においても例外ではありません。

さらに、上川地域は広葉樹を利用する製材工場が多い地域として知られていますが、近年は外国産広葉樹の輸入が困難となっており、地域産業からは道産広葉樹材の安定的な供給が強く求められています。

【これまでの取組】

こうした地域課題を踏まえ、当署では造林・保育作業の省力化・低コスト化を進めるとともに、針葉樹の植栽と広葉樹等の天然更新を組み合わせた「多様な森林づくり」を目指して施業に取り組

んできました。

従来、人力に頼っていた下刈り作業は、炎天下での作業となることから作業への負担が大きく、離職の一因となる場合もありました。このため、当署では、リモコン式草刈り機を活用した機械下刈りを導入し、労働環境の改善と負担軽減を図っています。併せて、その効果を広く共有するため、民有林関係者や地元林業事業者等を対象とした現地見学会を開催してきました。

広葉樹資源の育成については、北海道大学雨龍研究林で確立された「表土戻し地拵え」を導入し、令和7年度からカンバ類を中心とした天然更新量の調査を開始しました。さらに、主伐時にはミズナラなど母樹となる高木性広葉樹を一定量残存させる「保持林業」を実施し、広葉樹資源の育成と生物多様性の両立に配慮した森林施業を推進しています。

【今後の取組】

令和8年度においても、機械下刈り作業を着実に推進するとともに、「表土戻し地拵え」や「保持林業」といった取り組みを継続し、地域が抱える諸課題の解決に取り組んでいきます。また、これらの取組を通じて得られた成果や知見については、民有林関係者にも分かりやすい形で積極的に情報発信し、上川地域全体の森林づくりの推進に寄与していく考えです。



リモコン式下刈り機での作業



表土戻し地拵え試験地の設定・調査

帯広市立大空学園義務教育学校で出張授業を実施

令和8年2月6日（金曜日）、「帯広市立大空学園義務教育学校」において、北海道森林管理局による出張授業を実施しました。

北海道森林管理局では、若手職員を中心とした有志による「広報ワーキングチーム」を立ち上げ、森林や林業の役割について理解を深めてもらうため、広報活動の改善に取り組んでいます。

その取組の一環として、「小学校5年生が社会科で森林や林業について学ぶ」ことに着目し、森林に関する授業用プログラムを作成し、学校での学習をサポートする取組を継続して行っています。

今回は、帯広市立大空学園義務教育学校からの依頼を受け、新たな授業プログラムを作成できる機会であったことから、出張授業を実施しました。

また、当日は5時限目が授業参観日であったため、保護者も参加する形での出張授業となりました。

出張授業は午前・午後の2時限に分けて実施しました。午前の授業では、パワーポイントを用いた講座とグループ討議を行い、午後の授業では、保護者も交えた体験型アクティビティ「ウッドボウリング」とグループ討議を行いました。



パワーポイントを用いた講座の様子

午前の授業は、「木を伐ることは悪いことではない」「木を育てることの大切さ」をテーマにスタートしました。

最初に、○×クイズを実施しました。問題ごとに○と×の位置へ移動し、体を動かしながら森林に関する基礎的な知識を楽しく学べる内容としました。



○×クイズで正解を目指して移動する様

北海道の森林面積が北海道全体の約7割を占めていることを紹介すると「思っていたより多い」と驚きの声が上がりました。

その後、針葉樹と広葉樹の違い、人工林と天然林の違いについて説明しました。児童は真剣な眼差しで話を聞いており、特に針葉樹と広葉樹は3年生の時に地図記号で学習していることもあり、関心を持って取り組んでいました。

続いて、「考えてみよう！」の時間として、木を植えてから成林するまでに、どのような手入れが必要かについて、アサガオの育て方を参考にグループで話し合い、発表を行いました。「木が成長するために周りの草を刈ってあげる」「木が成長して混み合ってきたら、間引くために伐ってあげる」など、児童は一生懸命に考えた意見を堂々と発表していました。

午後の授業では、保護者も参加し、「ウッドボウリング」という体験型アクティビティを行いました。8種類の広葉樹をボウリングのピンとして使用し、2投で倒せた本数の合計を競いました。



ウッドボウリングの様子

児童や保護者は、「どの木を使おう」「重たいほうが倒れやすいのでは」など相談しながら、楽しそうに取り組んでいました。



ウッドボウリングのピン

その後、ゲームを通じて気に入った樹種を選び、グループに分かれて話し合い、発表会を行いました。「肌触りが好き」「イタヤのにおいが好き」「ナラを中心の模様がきれい」など、さまざまな視点から樹種の違いに注目した意見が出されました。



グループに分かれての話し合いの様子

職員からは、それぞれの樹種の特徴や用途について紹介しました。ナラがウイスキーの樽に使われていることを説明すると、保護者からは納得の表情が見られ、イタヤがメープルシロップの原料となる木であることを伝えると、児童からは驚きの声が上がっていました。



広報ワーキングチーム員

授業の最後には、林業は木を「くり返し」使うことができる「循環可能な産業」であること、そして日常生活の中で木を積極的に使ってほしいことを伝え、授業を締めくくりました。

授業全体を通して、積極的に発言する児童が非常に多く、森林や木への高い関心が感じられました。

今回の出張授業は、十勝西部森林管理署の職員にも運営に協力していただきました。この出張授業を通じて、一人でも多くの小学生が森林に興味を持つきっかけとなれば、職員としても大変うれしく思います。

広報ワーキングチームでは、最終的に職員が出張授業を行わなくても、小学校の先生方が手軽に森林の授業を実施できるプログラムを作成することを目指しています。今回の授業で得られた成果を更にブラッシュアップし、小学校社会科における森林の学習を、より分かりやすく、楽しく学べるプログラムの検討を進めてまいります。

なお、学校での調べ学習にも活用できるよう、当局ホームページにおいて「キッズページ」を公開していますので、ぜひご利用ください。



キッズページはこちらから

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kids_page/index.html

こんにちは 森林官です!

網走西部森林管理署西紋別支署

紋別森林事務所

地域統括森林官 深尾 泰之



【森林事務所の概要】

紋別森林事務所は、北海道オホーツク海沿岸のほぼ中央部に位置する紋別市に所在しています。管轄面積は、紋別森林事務所及び上渚滑森林事務所を合わせて約26,000haに及びます。紋別市は、カニやホタテ漁を中心とした漁業が基幹産業であるほか、酪農を主体とした農業や林業も盛んな地域です。また、冬季には流氷が接岸することから、流氷砕氷船「ガリンコ号」による流氷クルーズを目的に多くの観光客が訪れるなど、観光業にも力を入れています。

地域との関わりとしては、例年5月に「オホーツク魚の市民植樹祭」が開催されています。この取組は、「植樹は山から川へ、川から海へ恵みをいただくもの」を合言葉に、漁業関係者や紋別市、林業関係者、一般市民などが参加するもので、当支署も構成団体の一員として参画しています。市街地に近い大山スキー場周辺において、針葉樹やミズナラなどの苗木の植樹を行っています。



市民植樹祭の様子

【森林事務所の業務】

紋別森林事務所では、管内の林野巡視や林道点検をはじめ、次期国有林野施業実施計画策定に向けた林況調査、苗木の植付や植樹箇所の下刈りを行



製品生産事業の様

う造林事業、森林を伐採して丸太を生産する製品生産事業など、森林整備事業に係

る監督業務を実施しています。

今年度は、間伐や択伐などの森林整備を約900haで予定しています。

【海岸防風林について】

紋別森林事務所の特徴の一つとして、オホーツク紋別空港付近に海岸防風保安林を管轄している点が挙げられます。この紋別海岸防風保安林は、オホーツク海からの塩害や強風などの気象害からの防備を目的として、昭和33年頃から造成が開始されました。アカエゾマツを主体とし、延長2.2km、幅約80mの林帯が造成されています。



紋別海岸防風林

しかし、度重なる波浪等により海岸線と防風林の侵食が進行し、林帯幅は約50mまで減少しました。その結果、海への土砂流出や、流木による定置網の破損といった漁業被害が発生したことから、平成11年より防潮治山工事が実施されています。また近年では、衰退した林帯の再整備にも取り組んでおり、今年度は成長したアカエゾマツ林の間伐、空白地へのカシワ等の植林、付属する作業道の整備を実施しています。

【最後に】

当支署に赴任して3年目に入りました。定年までのカウントダウンが始まる中ではありますが、経験豊かな非常勤職員（職員OB）の協力もいただきながら、国民共通の財産である国有林の適切な管理に努めていきたいと考えています。今後も地域との関わりを大切にし、着実な業務の遂行に励んでまいります。

も り 森 林 の 話

若手職員のコーナーです

第40話
留萌南部森林管理署
村上 大和

【自己紹介】

私は空知郡南幌町で生まれ育ち、帯広農業高校森林科学科を卒業後、留萌南部森林管理署に採用されました。採用から2年目までは「業務グループ」に所属し、主に製品生産・製品販売事業を担当しました。3年目からは「増毛・幌糠森林事務所」に配属となり、地況・林況調査や各種事業請負の監督業務などに携わっています。

今回は、日々の業務の中で特に印象に残っていることについて紹介します。

【暑寒別岳】

暑寒別岳は、増毛国有林に所在する標高1,492mの山で、特に6月中旬から7月にかけては、山頂一帯にお花畑が広がります。マシケゲンゲ(図1)、マシケオトギリ(図2)といった固有種も見られ、



図1



図2

「花の名山」として多くの登山者に親しまれています。

また、山麓に広大な原始林が広がり、晴れた日は山頂から大雪山、羊蹄山、利尻山、積丹半島などを一望することができます。

留萌南部森林管理署では、年に一度、署内で希望者を募り、箸別ルート of 清掃登山を実施しています。

昨年度は7月中旬に行いましたが、入山者の皆様のご協力もあり、回収したごみの量は少なく、美しい自然環境が良く保たれていることを実感しました。



【冬の現場業務について】

私の担当区部内は豪雪地帯に位置しており、冬は積雪量が多く、軽装備での作業は困難となります。そのため、冬の現場ではゾンメルスキーやスノーハイク、スノーシューを活用して業務を行っています。

ゾンメルスキーは、一般的なゲレンデスキーとは異なり、踵が浮く構造になっており、滑走面にはアザラシの毛皮が取り付けられています。一方、スノーハイクはゾンメルスキーよりも横幅が広く、毛皮の代わりに「クライミングシール」が装着されています。これらの道具は、冬期の現場業務において欠かせない存在です。

私自身、初めて使用した際は「ゲレンデスキーと同じ感覚だろう」と思っていたのですが、実際には全く乗り心地が異なり、

何度も転んだことを今でもよく覚えています。

体力やバランスに自信がある方は、機会があれば、ぜひ一度挑戦してみてください！

【最後に】

高校では林業について専門的に学び、自信を持って着任しましたが、実際の業務を通じて、自身の知識や経験がまだまだ未熟であることを日々痛感しています。

今後も現場での経験を大切にしながら、学び続け、より確実に安全な業務遂行に努めていきたいと考えています。



左 ゾンメルスキー

右 スノーハイク

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

もしもの津波に備えて ～避難計画の見直しと 実践訓練の取組～



【根釧東部森林管理署】

昨年7月の地震・津波警報への対応を踏まえ、当署では「津波避難計画」の見直しを行いました。見直しに当たっては、水や食料等を備えた避難用リュックを携行し、実際に背負って避難する体験型訓練を実施することで、災害発生時の行動をより具体的に想定した訓練としています。今後も、日頃からの備えと確認を重ね、地域の安全を守るため、防災対策の一層の充実に継続して取り組んでまいります。

仁木町での「冒険家と 小さな春を探しに行こう！ 稜線ハイキング」に参加



【石狩森林管理署】

3月8日、世界的冒険家・舟津圭三氏を講師に迎え、赤井川村の小中学生を含む17名が参加する冬山散策を開催しました。本イベントは、森育（もりいく）事業企画委員会が主催する森林環境教育のモニターツアーとして実施したものです。当日は、悪天候のため内容を一部変更し、ワイナリー周辺でのスノーシュー散策やスノーモビル体験に加え、舟津氏から南極大陸横断の貴重な体験談を伺う三部構成で実施しました。

ウッディホール（木育 コーナー）に新しい 仲間が増えました



【技術普及課】

北海道森林管理局1階ウッディホール木育コーナーに、新たな展示品が仲間入りしました。置戸町・網走中部森林管理署管内の国有林で育ったエゾマツが、「お皿・お茶わん・湯のみ」となって展示されています。エゾマツやトドマツ、ミスナラ、ハリギリなど、北海道の木材をふんだんに使用したウッディホールは、木の魅力や温もりを身近に感じられる空間です。ぜひ、北海道の森が育んだ木のぬくもりを感じにお越しください。

北海道・木育（もく いく）フェスタ2026 第76回北海道植樹祭



【企画課】

5月9日、枝幸町町有林において「北海道・木育フェスタ2026 第76回北海道植樹祭」を開催します。本事業は、若い世代を含む道民の森林づくりへの理解を深め、「道民ひとり1本植樹・育樹運動（目標500万本）」を全道に定着させることを目的としています。令和7年度から10年度にかけ、道内4エリアで植樹祭を順次開催し、植樹・育樹運動の機運醸成を図ります。今回は、枝幸町合併20周年の連携事業と位置付けられています。

もり
広報 「北の森林 国有林」4月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 富良野岳（チングルマ）】

今月の表紙は、富良野岳に咲くチングルマの美しい風景です。

チングルマの見頃はもう少し先になりますが、登山の際には、目を楽しませてくれることでしょう。



今月の表紙